

配布資料 05

第2回姫路市経済有識者会議

事務局報告（1）

～スケジュール確認他～

令和8年（2026年）8月4日

姫路市産業振興課

同時期に改定/策定を行う「経済振興ビジョン」「観光戦略プラン」「国際戦略」の分野別計画同士が連携し、姫路市が直面する課題にもれなく対応できるよう、それぞれの検討懇話会の座長らが進捗を共有・確認する会議体

開催スケジュール

令和9年3月までに3回程度を想定

メンバー

- | | | | |
|------|-------|-------|----------------------------|
| (座長) | 国際分野… | 高坂 誠 | : 兵庫県立大学学長 |
| (委員) | 経済分野… | 畑 豊 | : 兵庫県立大学副学長 兼 社会価値創造機構長 |
| | | 長尾 真 | : 姫路商工会議所副会頭 (神姫バス代表取締役社長) |
| | 観光分野… | 加納 郁也 | : 兵庫県立大学副学長 |

- (事務局) 姫路市 … 各計画を所管する部署の部長級が参画
経済振興ビジョン…商工労働部長, 観光戦略プラン…観光コンベンション室長,
国際戦略…国際戦略室長

- (オブザーバー参加) 古賀 弥生 : 芸術文化観光専門職大学 副学長
姫路市文化芸術振興ビジョン検討懇話会 座長

第1回

R8年2月6日
午後3時～

- ・ 3つの計画の関連性
- ・ 改定の進め方
- ・ 各計画の大枠の説明

→課題整理

第2回 (案)

R8年8月4日 (火)
午後2時～

- ・ 進捗報告
- ・ 意見交換

第3回 (案)

R9年2月頃

- ・ 最終報告
- ・ 3つの計画の総括

姫路市独自の特征あるビジョンを策定することが肝要。3計画の関連性や、事業のPR・KPI設定まで丁寧に検討し、効果的なビジョンにすることが求められる

経済・観光・国際共通

2/6（金）有識者会議 主な発言

計画策定の進め方

- 画一的な（金太郎飴的な）どの地域にも当てはまる内容ではなく、**姫路市の特征が見られるビジョン**を作成することが必要
- 積み上げの考え方ではなく、10年後の将来像・KPIを定めて逆算・バックキャストの考えで、事業やKPIを考えることが必要

3計画の関係

- **経済が主であり、観光・国際は副次的な位置づけ。**観光来訪者増により姫路市経済を活性化させるには、相当な数の来訪が必要。なんとなくインバウンドを呼ぶのではなく、**経済発展と結びついた観光戦略**を検討するべき
- 戦後の姫路市経済は重工業や鉄鋼・化学で成り立ち、後追いで観光業や国際的な動きが始まった。重工業だけではなく、新たな産業として観光業を強化したい

PR

- **経済・観光・国際どの分野でも、広報戦略が最も重要**
- 姫路にはシャイな人が多く、良い物や技術を特にPRしていない。市民が市の産業の魅力を認識し、PRを強化できるとよい

KPI

- 検討懇話会を繰り返すうちに本質から乖離したKPI設定にならないよう、**目指す姿を考えてKPI設定**することが重要。本来手段であるはずの、補助金件数等のKPIが目的化するケースが多い

経済分野では、産業の実情を正確に捉え、優先度付けすることが必要。
また、特にブランドPRは、市が支援可能であり、姫路の独自色を出せる方策と想定

経済

2/6（金）有識者会議 主な発言

市産業の 特徴

- 姫路には誇れる技術が多くあるが、今後主要産業となる情報通信サービス分野に姫路企業はどう関わるのか？
- 世界に誇れる食やファッションをもっとPRする仕組みが必要と考える
- 工業界と商業界、国際的に稼ぐ企業と、国内だけで稼ぐ企業を明確に区分し、各企業に合った方策を検討するべき。どの業種で人手不足か、姫路市の現状・実情をしっかりと把握したうえで方策を検討しなければ、特徴が無い戦略になる

優先度

- 市で最も大きな産業は重工業。1つの産業に特化してサポートするのか否か、全体のウェイトを決めるべき

各課題 ①②③ について

- ①「産業構造の偏り」や②「人手不足」は全国に共通する課題であり妙案を思いつくことは難しいが、③「ブランド発信不足」は姫路市が支援し効果を生みうる
 - デジタル担当者が居ない企業が多いとあるが、賃金を上げ人材を呼ぶ他に解決策は無い
 - 特に製造業において、企業間連携の不足は非常に難しい課題である。ノウハウをすべて共有すれば自社のビジネスが成り立たなくなるため、どこまでを共有知にするか話し合う必要がある
 - 若者流出の解決には魅力的な企業を呼ぶしかない。企業立地促進は既に市が取り組んでいる
 - 積極的なPRを行えるように、市が支援することは有効と考える
 - 円安の影響もあり、販路拡大について国内企業は余り困っていないように思う

観光では、滞在・消費増のために地域連携が必須であること、複数年での計画策定が望ましいこと等が特に強く提言された。PR・回遊性向上も重要な論点である

観光

2/6（金）有識者会議 主な発言

地域連携

- 経済は市内だけで循環するものではない。相互に連携するメリットがある自治体や国・外国の地域との連携も視野に、経済の有機的な繋がりを考えるべきである
- 新幹線で来訪できるため日帰り観光になってしまう。姫路城を活かし宿泊させたいなら、広域地域連携を考える必要がある。ビヨンドボーダーを意識してほしい

大規模計画

- 姫路城を活かしきるために、抜本的な案を作ることが必要
- 10年後からバックカスティングし計画を策定するなら、予算を100億円とり、10年単位の計画を建て、本気で参加する企業を募ることも一案である

PR

- 姫路城という競争力の高いコンテンツを持っていることは、姫路市にとって非常に有利な点。姫路城と他のコンテンツを結びつけ、PRすることが重要
- デジタルツールやSNS無しに取組むことはできないため、DXが必要である

回遊促進

- 国が交通空白地を解消する方針を出している。観光と結び付け回遊しやすい交通網を整備する等、一企業でできない取組を国や行政と共に取り組みたいが、実現性が低く難しい

外国人材の受入・定着を促進するためには、地元企業の人材ニーズの把握、行政及び企業の受入体制の整備、市民の意識の変革が重要である

国際

2/6（金）有識者会議 主な発言

計画策定の 進め方

- 日本人市民だけでなく、外国人の意見も取り入れ、姫路の良さを伝えるための新たなヒントを拾うことが重要

外国人材 受入

- どういった技術を持った人が姫路市に必要で、どういった高度外国人材をターゲットにするか、外国人労働者にどこに居住してもらうかを考えるべき
 - 空き家や空き店舗を外国人労働者の住居として活用する
 - バスの運転手なども不足している。より広い意味の”エッセンシャルワーカー”を確保することが必要
- 外国人が学生のうちに姫路市に来訪する機会を作り、姫路市に定着し働いてもらえるように取り組んでいる。台湾の専門学生を呼ぶ構想もある
 - 台湾と日本の給料の差は小さくなっている
 - 兵庫県立大学にもGBCというオールイングリッシュコースがあるが、地域への定着率は4分の1程度である。東大京大等に行く人や、地元に戻る人が多い
- 外国人受入体制を整えることと、市民の外国人材への抵抗感等を払拭していくことが重要

2/6(金)第1回有識者会議 >複数分野にまたがる項目の整理

経済・観光・国際それぞれの分野にまたがる項目を整理。有識者会議で割り振りを確認し、それぞれの計画内で対応することとした。

トピック	項目	詳細を記載する計画
企業	企業の外国人材の受け入れ（制度・環境整備）	経済
	地域企業の海外展開	経済
	地域産品の海外販路開拓	経済
インバウンド	観光関連産業の成長に伴う雇用創出	観光
	国際交流の活発化によるインバウンド観光の受入体制強化	観光
	インバウンド受入体制強化による経済効果の拡大	観光
MICE	MICE推進による地域経済の活性化	観光
	国際会議の受入・実施体制の確保，誘致	観光
都市の魅力向上	都市のブランド力強化による経済効果の拡大	経済
	海外に向けた効果的な都市プロモーション	国際
その他	グローバル人材育成・確保	国際
	観光DXの推進	観光
	観光消費額の更なる向上	観光